



日彫会報

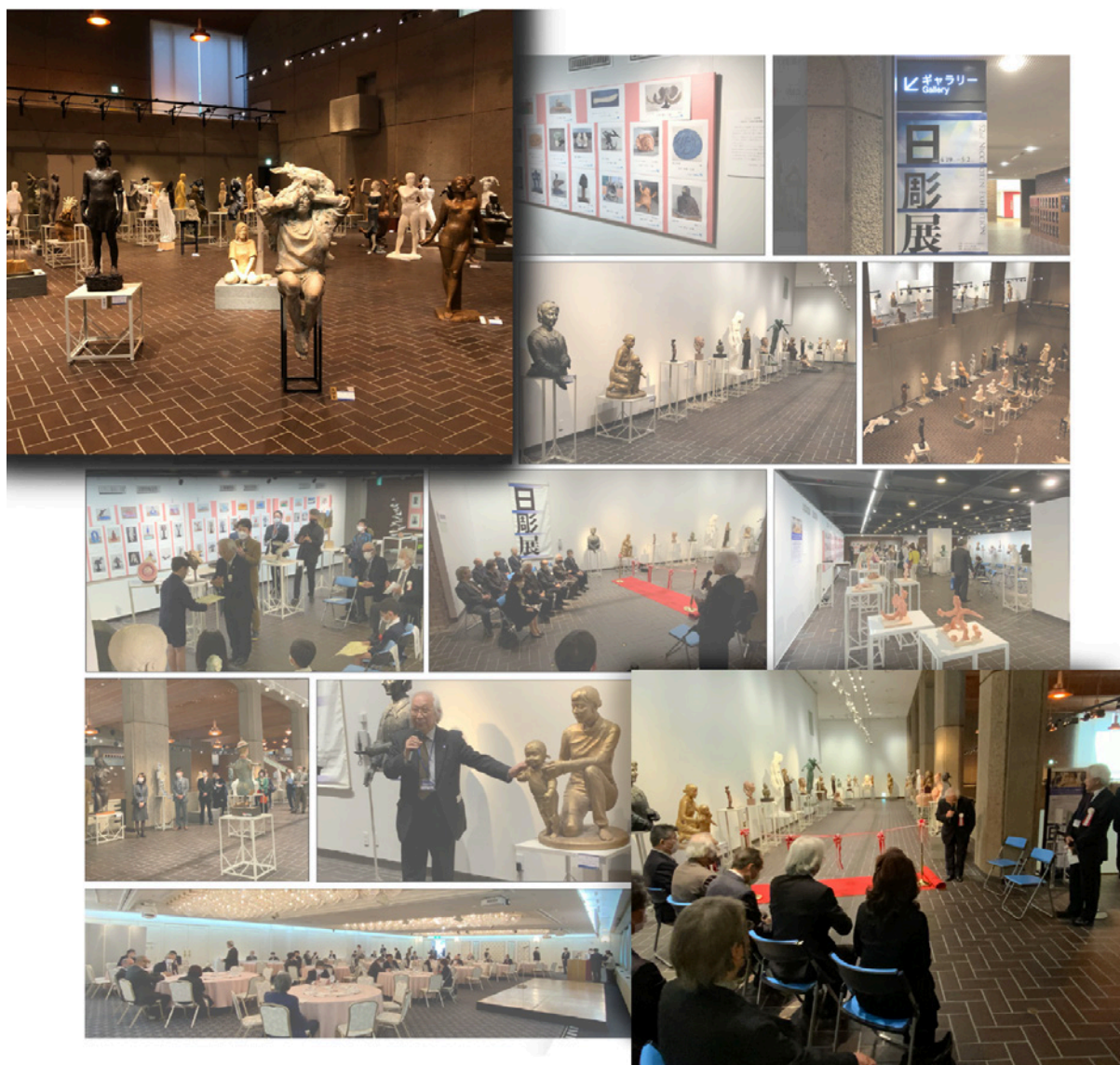
公益社団法人
日本彫刻会

事務所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジョン・ド・諏訪202号室

TEL 03(3209)1861 FAX 03(3232)0557

<https://www.niccho.com/> email: jimu@niccho.com

コロナの先へ それぞれの「温故創新（おんこそうしん）」をもとめて





「第52回日本彫刻会展覧会を振り返って〜さらなる未来に向かって〜」

日本彫刻会理事長 山田朝彦

これまでコロナ禍において様々な制約の中で開催してきた日彫展ですが、本年、第52回展をようやく平常通りに開催することができました。また、オープニングパーティーも行い、久しぶりに皆さまと展覧会開催の喜びを分かち合うことができました。これもひとえに会員、会友の皆さま、お支えいただいている多くの方々のおかげと心より感謝申し上げます。

今回、総出品数は262点と昨年に比べやや増え、特に一般出品は昨年より14点多く、本会にとって明るい兆しとなりました。また、本会の主要な取り組みとなりつつある「U-20 日彫展」への出品数はほぼ倍増しており、子ども達に彫刻芸術の魅力を伝えたいという願いが皆様のご協力により実を結びつつあります。そして、本会の公益事業の大きな柱である視覚に障がいのある方たちへの鑑賞支援は、視覚特別支援学校の児童・生徒の作品を展示する新しい取り組みがスタートしました。さらに、第52回展は、これまで日彫展を楽しみにしてくださった皆様に加え、多くの子ども達や外国の方に見ていただくことができました。新しい出会いによって私たち作家も新しい感性に接することができる、そんな活動を今後も行つて参りたいと考えています。

いつも同じようなことを申し上げておりますが、私達は、彫刻という大きなテーマの下に集まった仲間です。日本彫刻会は、仲間である皆さまの自由な表現や多様な価値観を尊重する会であつてほしいと願っています。本会は長い歴史と分厚い人材に恵まれ、多くの経験を蓄積しておりますが、同時に先端的なことにチャレンジしてきました。未来は、常に今の積み重ねです。一歩前に、さらに一歩前に皆さまと共に進んでいきたいと思っております。

ご承知のように、コロナ、戦争、自然災害など、10年前には想像もつかないような時代を私たちは生きています。そのような中であつて、彫刻芸術は、多くの人々に励ましと勇氣、感動を与えることができると確信しております。私たち作家自身が様々な「もの」「こと」に心を動かしながら、生き生きと制作していきたいものです。会員、会友、一般鑑賞者の皆さまには、引き続き日本彫刻会の活動になお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2023年度 日本彫刻会総会

第94回通常総会報告

2023年1月21日（土）14時40分から日展会館において第94回通常総会が開催されました。

出席者正会員170名（内委任状131名） 定款17条の定めるところにより総会は成立しました。

議事

- 第1号議案 2022年度事業報告承認の件
 - 第2号議案 2022年度決算報告承認の件・監査報告
 - 第3号議案 第52回日本彫刻会展覧会開催に関する件
 - 第4号議案 定款の施行細則変更の件
 - 第5号議案 会員資格喪失の件
 - 第6号議案 会員状況承認の件
 - 第7号議案 その他の件
- 各議案とも異議なく承認されました。

報告事項

- 1 2023年度事業計画の報告
- 2 2023年度予算の報告
- 3 新運営委員及び新無審査会員の報告
- 4 第52回日彫展審査員の報告
- 5 第52回日彫展会友推挙選考委員の報告
- 6 2023年日本彫刻会選抜展（三越展）及び第15回日本彫刻会新鋭選抜・受賞作家展準備状況の報告
- 7 その他の報告

高齢者会員祝賀

数え90歳を迎えられる正会員の親松英治先生、野畠耕之介先生に賀詞と記念品が贈呈されることが報告されました。

慶事

第9回日展（令和4年度）
内閣総理大臣賞

「無垢の予兆」

中原篤徳先生

第9回日展（令和4年度）
東京都知事賞

「ヤマトオグナノ御子」

村山哲 先生

第9回日展（令和4年度）
日展会員賞

「天平の月を想ふ Ⅲ」

伊庭靖二先生

第52回日本彫刻会展覧会報告

①会期 令和5年4月19日（水）～5月2日（火）

②会場 東京都美術館ギャラリーA・B・C

（東京都台東区上野公園8―36）

③陳列点数 262点（写真展示含む329点）

〈内訳〉

正会員 195点

会友 17点

遺作 0点

無鑑査（一般応募） 1点

鑑査（一般応募） 39点うち初入選 21点

U-20（一般応募） 10点ほか写真展示 67点

④審査員

特別賞審査員 建畠哲氏 仲居宏二氏

日本彫刻会理事

審査員長 山田朝彦

山本眞輔

上床利秋

榎野仁一

武本大志

丹羽俊揮（以上15名）

⑤会友推挙選考委員

上田久利 櫻井真理 嶋畑貢

榎野仁一（以上4名）

⑥受賞者

西望賞

文部科学大臣賞

東京都知事賞

会員賞

白石恵里

嶋畑貢

櫻井真理

岡本和弘

日彫賞 市村成保 田中宏欣
優秀賞 柴田茜 水野谷憲郎 田原迫華
新人賞 田畑智功 濱田真菜
藤本美空 本多史弥

U-20日彫賞

青木秀征 柿田紗蘭 河端岳人

U-20優秀賞

青木謙征 加賀谷菜月 杉浦史果
瀬澤亮太 辻本彪汐 土橋輝々
西畑衣都 (以上23名)

⑦会友推挙・正会員推挙

会友推挙 狩野茂 菊井和史 高橋弘夫
田上万豊 濱田真菜 羽室陽森
本多史弥 村田精一 門馬宏子
横田昌明 (以上10名)

正会員推挙

伊藤彩 岩重圭子 宇杉昭信
田原迫華 山内雄奨 (以上5名)

⑧入場者数 8,380名(前回7,222名)

(内訳)

一般 192名
東京都美術館特別展半券 1,623名
招待状 4,557名
出品者 1,085名
障がい者手帳をお持ちの方 140名
付添者 55名
日本美術家連盟他 66名
65歳以上、大学生以下 362名
パスポート 300名

⑨開会式

日時 4月19日(水) 11時30分から
会場 東京都美術館ギャラリーC

⑩表彰式

U-20受賞者対象
日時 4月22日(土) 14時から
会場 東京都美術館 ギャラリーC
本展受賞者対象
日時 4月22日(土) 17時から
会場 KKRホテル東京 瑞宝の間
(千代田区大手町1-4-1)

⑪オープニングパーティ

日時 4月22日(土) 17時から
会場 KKRホテル東京 瑞宝の間

⑫彫刻研究会

第52回日彫展会場において、審査員による批評を
交えた彫刻研究会を実施した。
日時 第1部 4月22日(土) 11時から
第2部 4月23日(日) 11時から
会場 東京都美術館ギャラリーA・B・C
参加者 通算約110名

⑬新世代の彫刻家育成活動

第5回 U-20日彫展
会期・会場 日彫展に同じ
写真応募点数 77点
陳列点数(受賞者) 10点

⑭彫刻に触れる鑑賞支援活動

第52回日彫展において、「視覚に障がいがある方の
タッチツアー」と「盲学校鑑賞教室」を実施した。

a 視覚に障がいがある方のタッチツアー

(希望者の申込により随時実施)
通算参加者 31名(うち引率者12名)

〈鑑賞支援対応〉

当番の会員、(日彫友の会 ほか)
北原朋佳(4月29日)

b 盲学校鑑賞教室

4月21日(金) 東京都立葛飾盲学校 中学部
(中学生7名 教員3名)
4月21日(金) 筑波大学附属視覚特別支援学校
(高校生17名 教員5名)

〈鑑賞支援対応〉

秋田美鈴 大亀清壽 白石恵里 武本大志
前芝武史 町野紗恭 宮坂慎司 山本将之
(日彫友の会 ほか) 青松利明 半田こづえ
板橋勝太郎 内藤千尋 重原智萌
4月28日(金) 東京都立久我山青光学園
(小学生24名、教員14名)

4月28日(金) 筑波大学附属視覚特別支援学校
(小学生15名、教員5名)

〈鑑賞支援対応〉

秋田美鈴 浮森夕菜 奥平陽和 音羽久美子
神谷睦代 高野浩子 小橋暁子 境野里香
坂本健 武本大志 橋本和成 長谷川倫子
間島博徳 町野紗恭 水野谷憲郎 宮坂慎司
宮地淑江 山田雅英
(日彫友の会 ほか) 阿久津汰輝 板橋勝太郎
小林叶 重原智萌 半田こづえ

⑮ 彫刻鑑賞解説会（ギャラリートーク）

第52回日彫展において、ギャラリートークを実施した。

日時 期間中毎日

（彫刻研究会第1部当日、最終日を除く）

会場 東京都美術館ギャラリーA・B・C

実施通算参加者 約120名

⑯ 図録作成

本会が開催する彫刻展覧会の図録を作成した。

第52回日彫展図録

4月21日（金）発行 860冊

〔第52回日彫展メイキング映像〕
携帯電話からQRコードを
読み取ってご視聴ください。



◇ 第5回U-20日彫展

2019年より企画展「U-20日彫展」集まれ！未来の彫刻家」を開催し、本年度5回目を迎えます。本会では、新しく瑞々しい感性を有する20歳以下の方たちの作品を紹介するとともに、次世代へと彫刻芸術のバトンを繋げてまいります。

（U-20対応）

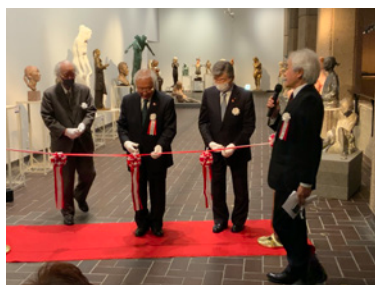
小橋暁子 武本大志 奥平陽和



表彰式の様子



U-20 表彰式の様子



開会式でのテープカット



U-20 展示風景



左：彫刻研究会、上：ギャラリートーク

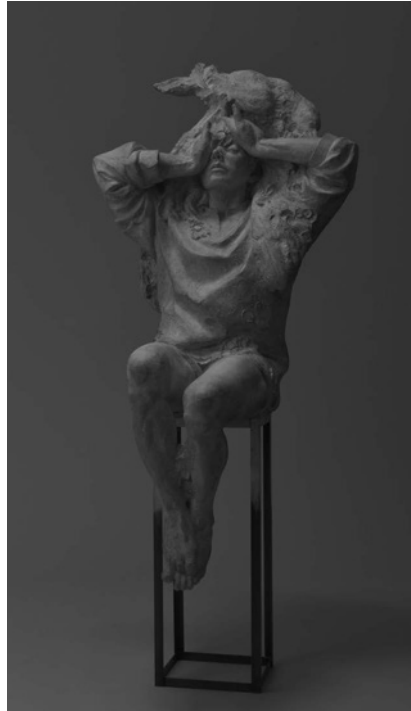


彫刻に触れる鑑賞支援活動

◇受賞者の声

西望賞 白石 恵里「群鳥」

身体の境界が溶け出し混ざり合うような、思考が溢れ出し群れをなす鳥のようにはぐくような、一方で渦巻いていた心の靄が霧散していくような、そのようなイメージを一つの形にしようと試みました。



文部科学大臣賞 嶋畑 貢「天使の詩『春陽』」

冬の寒さにじっと耐えてきた自然界の生き物がここぞとばかりに一斉に目を覚ますころ。人間の子ども達も同様に分厚い衣服を脱ぎ捨て春の柔らかな目差しを感じる。

右手の指先と、そっと目を閉じた姿の中に無垢で清らかな心の少女を表現してみた。



東京都知事賞 櫻井 真理「やすらぎ」

17歳となった長女は活発で運動が大好きである。動き回っている時、一瞬瞬にもたれて休んだ姿が印象的だった。成長してきたいろいろな出来事を思い出しながら制作した。「やすらぎ」を感じてもらえたらありがたい。



会員賞 岡本 和弘「紡ぐ事なく」

材料を最大限使うことを第一として作為を最小限に、一種の枷を課して構想を練る。結果所謂「女の子座り」という形になる。彫刻的ではないポーズだが日本の情緒が内包している形を製作する事で情緒の中心を探すことができるのではと制作した。



[第52回日彫展受賞者インタビュー映像]

携帯電話からQRコードを読み取ってご視聴ください。

[新人賞]



[優秀賞]



[日彫賞]



[特別賞]



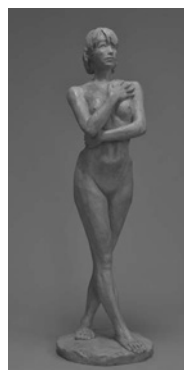
日彫賞 市村 成保 「支え」



日彫賞 田中 宏欣 「春かおる」



優秀賞 柴田 茜 「煌」



優秀賞 水野谷 憲郎 「七五三」



優秀賞 田原 迫 華 「跳」



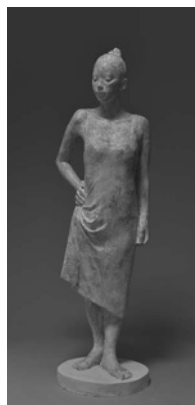
新人賞 田畑 智功 「共に生きる」



新人賞 濱田 真菜 「燦々」



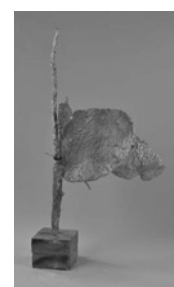
新人賞 藤本 美空 「fake」



新人賞 本多 史弥 「想い」



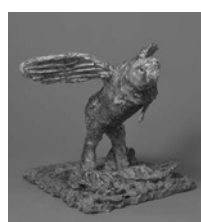
U-20 日彫賞 青木 秀征
「バレリーナちようちよう」(7歳)



U-20 日彫賞 柿田 紗蘭
「4匹目の羊」
(17歳)



U-20 日彫賞
河端 岳人
「ハイブリッド」
(10歳)



U-20 優秀賞 青木 謙征
「すみかを探して
オオサンショウ
ウオの旅」(10歳)



U-20 優秀賞 加賀 谷菜月
「いちじくの中身」
(20歳)



U-20 優秀賞
杉浦 史果
「木の上にある
ねこの家」
(9歳)



U-20 優秀賞
瀬澤 亮太
「砂漠の家族」
(9歳)



U-20 優秀賞
辻本 彪 汐
「ゴールデンタイガー」
(11歳)



U-20 優秀賞
土橋 輝々
「たつのお年ごろ」
(14歳)



U-20 優秀賞 西畑 衣都
「うまく回れたよ!!」
(8歳)



第52回日彫北陸展

会期 令和5年6月23日（金）～6月27日（火）

会場 石川県立美術館（石川県金沢市出羽町2-1）

陳列点数 91点（内巡回作品 67点）

北陸日彫会賞 「址Ⅱ」 横山 丈樹

北國新聞社社長賞 「ここにしか咲かない花がある」 丹羽 俊揮

第52回日彫北陸展は会期前日の6月22日に搬入陳列を行いました。その後、山田理事長、石川県代表、金沢市代表、金沢美術工芸大学学長、石川県立美術館副館長、北國新聞社をはじめ各報道機関代表などの列席のもと開場式を執り行いました。開場式では北陸展の表彰式も行いました。



開場式の様子

続いて熊谷北陸日彫会会長の司会進行で来賓も交えてギャラリートークを行いました。まず、山田理事長が自作について語られ、参加者は、制作に向かう姿勢や心構えを聞き感動しました。また、受賞者によるトークもあり参加者は有意義な時間を過ごしました。



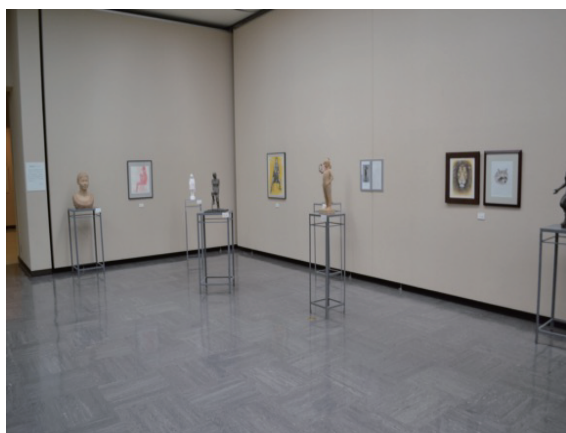
開場式後のギャラリートークの様子



ワークショップの様子

その後U-20日彫展の解説があり地元石川県からの出品者もいて熱心に説明を聞いておられました。
北陸日彫会では北陸日彫会特別企画「発想展」を同時開催し、彫刻が完成するまでにデッサンや小型を制作しています。一般の鑑賞者は普段見ることが出来ない内容が展示されていたので好評のようでした。
展覧会会期中24日はワークショップを行い約30名の参加がありました。参加希望者が多く、定員30名と決めておりましたのでお断りをしなければなりませんでした。
石川県民の愛好者や北陸の会員の知り合いがたくさん来場していただき、例年より多く、近年では最多の入場者数でありました。

（北陸日彫会 石川県事務局）



北陸日彫特別企画
「発想展」の様子

第52回日彫東海展

会期 2023年7月25日(火)～7月30日(日)
会場 愛知芸術文化センター8階
陳列総数 94点(巡回作品 67点)
入場者数 1,678名
愛知県知事賞 「かがす」 早川 高師
中日賞 「跳」 田原 迫華
東海テレビ賞 「窺う人」 永江 智尚
東海日彫会奨励賞 「わしはまだ逝かん」 田上 万豊
東海日彫会新人賞 「たゆたふ」 松永 未来



祝賀会の様子(上)



彫刻研究会の様子(右)

今年度の日彫東海展は真夏の開催となりました。会期中は40度近い気温の日が続きましたが多くの人にご来場いただきました。今年から入場料を見直し、学生を無料にしました。厳しい暑さの中での開催だったためか入場者数は昨年よりも少なくなっていました。5000円の入場料を払って観覧してくださるお客様が昨年よりも多かったのが今年の特徴でした。

7月24日(月)に搬入作業を行い、午後6時半より美術館10階のウルフギャングバックにて山田朝彦理事長をはじめ共催者、後援者、来賓をお招きして祝賀会を開催いたしました。U-20の小学生3名とその保護者の方も授賞式に参加され、受賞の喜びを伝えていただきました。今年は夏休み中の日程だったので、若い教員の出品者が多く参加してくれました。和気藹々とした雰囲気では進行し、来賓の方も最後まで参加頂いた楽しい会となりました。

7月25日(火)午前10時30分より開催された彫刻研究会では、山田朝彦理事長、池川直委員長、東海日彫会山本眞輔会長、神戸峰男副会長より、受賞作品のご講評を頂きました。北陸日彫会熊谷喜美子会長をはじめ一般のお客様も含め30名ほどにご参加頂きました。各先生方より、時には厳しいご意見や、出品者からの質問などもあり、約1時間半の研究会は最後に神戸副会長より例年に無い良い研究会になったとのお言葉で閉会致しました。

7月29日(土)午後2時より「触れてみる彫刻展鑑賞教室」を開催し、総勢18名が参加してくれました。今年には永江智尚会員を通じて広く参加者を募ったため、愛知教育大学の教員で視覚障害をお持ちの青柳先生と学生と卒業生11名、視覚障害者3名と付き添いの方3名が参加され、名古屋視覚障害者協会の方が1名、この取り組みを見学されました。田中厚好会員、白坂弘子会員、加藤真浩会員が彫刻の魅力や鑑賞ポイントについて丁寧に

彫刻のポーズを真似る参加者(左)



触れてみる彫刻展の様子



付き添いながら解説をしてくれました。触った彫刻の前で彫刻のポーズを再現するなど、楽しんで鑑賞する姿が印象的でした。来年もぜひ参加したいという声が聞かれたので、参加者の満足度は高かったと感じています。今後も広く広報活動を行い、充実した展覧会になるよう努力していきたいと思えます。また、新たな会員が互いに高め合い、多くの人に感動が届けられるような展覧会にしていきたいと思えます。

(東海日彫会事務局)

第15回日本彫刻会

新鋭選抜・受賞作家展

2023年5月28日(日)～6月10日(土)まで、銀座のギャラリー青羅にて「第15回日本彫刻会 新鋭選抜・受賞作家展」が開催されました。

新型コロナウイルスの制限も大きく緩和された今年は、「作品を語る会」などの懇親会も制限なく開催する事ができました。今年は20代の若手作家や本展での受賞者、新審査員の先生など合わせて24名の作家による作品が出品されました。

石膏、樹脂、陶、木、漆など多岐の素材の作品が並び、本展での作品制作のエスキースや本展では見られない表現内容など各作家のバラエティーに富んだ作品が陳列されました。

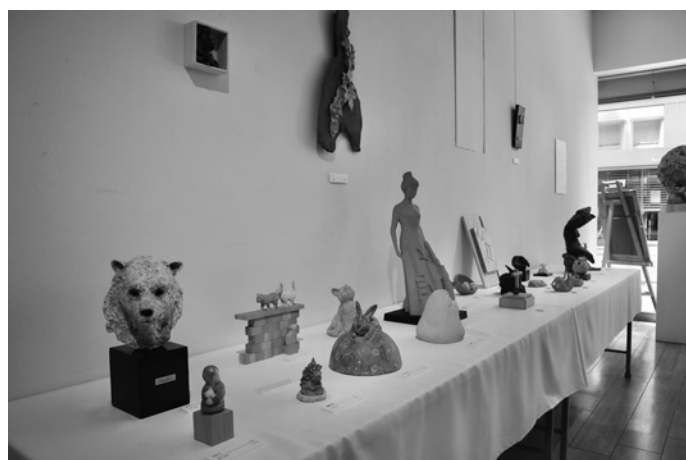


会場の様子

「作品を語る会」は初日の16時より行われ、山田朝彦理事長と池川直委員長にもご出席頂きました。他にも会務委員の先生方や各作家の知人、友人、作家仲間や教え子など沢山の方に集まって頂き、コロナ以前の活気に満ちた語る会が戻ってきた様に感じました。

同企画は出品者の山本将之会員の司会のもと、出品者より作品の意図や制作する上での苦労話などが語られ、出品者同士での意見交換、山田理事長、池川委員長をはじめご出席頂いた先生方から講評を頂くかたちで進められました。各先生方の博識に基づいたアドバイスをそれぞれ頂いたり、出品者同士で作品についての考え方を語り合い、今後に繋がる示唆に富んだ講習会となりました。また山田理事長より、現代具象彫刻を代表するエミリオ・グレコやペリクレ・ファチーニなども展示したこの会場で出品者の皆さんには次の時代を担う彫刻家になって欲しいとお言葉を頂きました。出品者一同、今後の制作をより一層引き締めて向きあうきっかけとなりました。

昨年からの新企画の小品展示、販売を今年も引き続き行いました。販売を目的とした作品ということもあり展示用の作品とは違い、日常に溶け込む彫刻をどの様に表現するのか、どうしたら彫刻をもっと身近に感じてもらえるのかなど各作家の新たな一面が垣間見える展示となりました。作品を購入していただくことの難しさを改めて感じながらも出品者には大変有意義な機会となっています。また、小品のみならず、展示作品の方も購入したいという声や、本展の方にも是非足を運びたいという声や、来場者に興味を持っていただくきっかけになっている様に思います。最終的には数



昨年から行っている小品展示、販売

点の作品が購入というかたちになり出品作家のモチベーション向上にも繋がっています。

新型コロナウイルスの規制緩和もあり会場の周りにはとても沢山の人が往来していました。残念ながら会期中二日間の豪雨に見舞われましたが、それでも昨年よりも多く350名の方に足を運んで頂きました。



初日の作品を語る会の様子



最終日終了後の出品者の集合写真

コロナ禍も終わり新たな時代へと変化していく世の中で、この新鋭選抜・受賞作家展では多くの挑戦をしてほしいとの話が数多くありました。次世代の若い作家たちが新しい挑戦をした表現をすることで彫刻の新たな可能性を見出し、また次の世代へと繋いでいく、『温故創新』を体現した展覧会へとなっていくことを目指していきたいと思っています。

第15回 日本彫刻会 新鋭選抜・受賞作家展 作品一覽



「やさしい心が…。」
志村 広子



「獅子」
加藤 真浩



「Ophelia」
秋田 美鈴



「つばめ見守る」
鈴木 紹陶武



「杜にすむ」
小橋 暁子



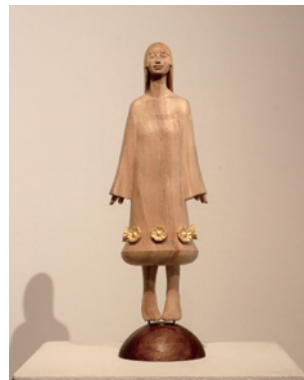
「ウミドリ」
浮森 夕菜



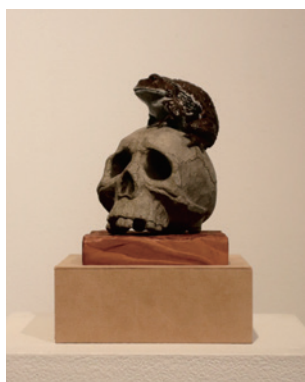
「超越」
高野 真吾



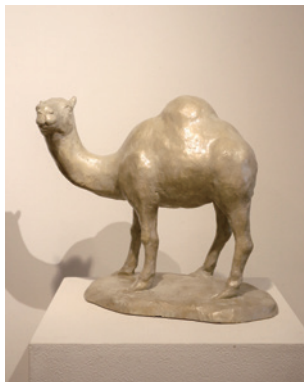
「一辿り着くー」
佐藤 励



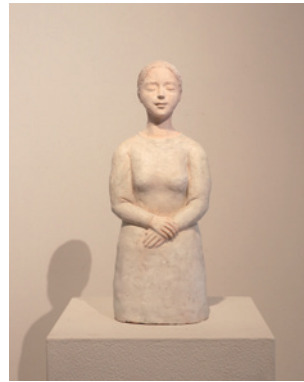
「想」
岡本 和弘



「野ざらし 墓」
武本 大志



「残月」
柴田 茜



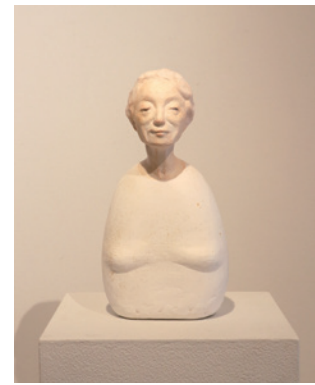
「やわらかな時間～楽しい夕餉～」
音羽 久美子



「森の小さなレストラン」
八塚 由紀子



「洗」
三政 洋一



「Remember」
田村 さつき



「鼓のためのエスキース」
山田 雅英



「おこりんぼ 本の虫はどこだ」
宮地 淑江



「青い瞳が守ってくれる」
丹羽 俊揮



「Religion saves/kills people」
山本 将之



「Silent parade」
村上 佑介



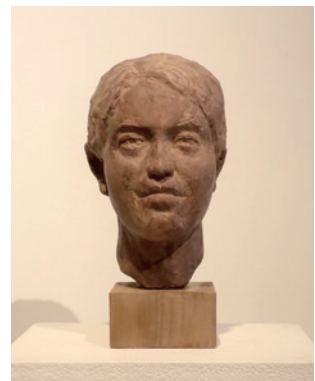
「希望の炎」
橋本 和成



「遷Ⅲ」
横山 丈樹



「サボテン」
森田 一成



「異邦人」
町野 紗恭

デジタル広報部の活動について

日本彫刻会では第51回展より、デジタル広報部を組織し、インスタグラムやユーチューブといったSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）で会の情報発信をしてゆく活動を始めました。この活動を始めるに際しまして、これまでの日彫会での主なSNS上の活動を振り返ってみましょう。

《ユーチューブチャンネル》

日彫会では公式ホームページ（<https://www.niccho.com/>）を中心にインターネット上での広報活動を行ってきましたが、50周年記念を機に、ユーチューブチャンネルを開設しました。このチャンネルの最初の動画では、日彫会50周年記念展の様子が紹介されています。また第52日彫展からは、展覧会メイキング動画として、会場



日彫会ユーチューブチャンネル

に作品が陳列されてゆく様子や、主な受賞作品と作者へのインタビュー動画を作成し掲載しました。この原稿をしたためている9月現在で登録者22人、動画の再生回数は合わせて2,000回にも達していない小さな小さなチャンネルですが、日彫会の作家達の活動をライブ感いっぱい世の中に告知してゆくことのできる貴重な広告資源として活用してゆきたいと考えています。

《インスタグラム》

次に、もう一つの日彫会のSNS活動の場として日彫会のインスタグラムのページを紹介します。ユーチューブよりも更新頻度を高め、日彫会選抜展や日彫展会場の様子、あるいは出品された作品の写真を逐次アップしています。インスタグラムは編集の必要な動画ではなく、「今撮った写真」をそのままあげることができます。日彫会作家の作品、もしくは作家達の日常の活動の様子を画像として記録し、ストックしておけば、展覧会以外の期間においても常に日彫会の情報を発信してゆくこともできます。インスタグラムはさまざまなSNSの中でも、特に登録や情報のアップが易しく、より多くの方々のつながりやすいという長所を持っています。日彫会の会員の方々の中にも、すでに個人で登録を行なって各々



日彫会インスタグラム



インスタグラムにアップされた出品作品

の活動の情報発信に活用をなさっている方が数多くいらっしゃるのではないのでしょうか？ デジタル広報部としては、ユーチューブやインスタグラムを通して、まず日彫会の中での横のつながりを拡げてゆきたいと考えています。

《皆様へのお願い》

最後にこれをご覧になっていらっしゃる皆様へのお願いです。今回こちらに挙げた日彫会のSNSのフォローをお願いいたします。左のQRコードにお手元のスマートフォンをかざしていただければ、すぐにそれぞれのページに飛んでゆることができます。そこから日彫会SNSと繋がってください。

我々と一緒に、日々の活動を拡散してゆきましょう！

（デジタル広報部主任 田丸稔）



日彫会ユーチューブチャンネル



日彫会インスタグラム

2023年日本彫刻会選抜展

―机上の美―

会期 2023年8月23日(水)～28日(月)

会場 日本橋三越本店 本館6階 美術特選画廊

会務委員会企画主任間島博徳先生に「日本彫刻会選抜展」の準備、開催について伺いました。

6月26日(月)に、図録用の写真撮影が行われました。山田朝彦理事長もお見えになり、三越からは臺さんも参加され和やかな雰囲気の中、順調に進みました。準備委員は、梱包を次々と解き、撮影順を確認し撮影場所へ作品を運んでいきました。山野カメラマンは慎重にライティングを調整し、作品の良さを引き出していました。コロナ感染が第5類に移行したこともあり、今回は、公開制作とギャラリートークが開催されることになりました。制作担当は、勝野眞言先生にお願いしました。



山野カメラマンによる撮影の様子



会場の様子

出品作家

山田朝彦	川崎普照	蛭田二郎	能島征二	山本眞輔
神戸峰男	宮瀬富之	池川直	石黒光二	笹山幸徳
勝野眞言	石崎義弘	石田陽介	伊庭靖二	上田久利
緒方信行	柏原花子	亀谷政代司	川崎義昭	
木代喜司	九後稔	楠元香代子	熊谷喜美子	
小橋暁子	寒河江淳二	櫻井真理	島田見根夫	
鈴木紹陶武	清家悟	武本大志	田中厚好	谷口淳一
田丸稔	堤直美	寺山三佳	中原篤徳	中村優子
野原昌代	馬場正邦	早川高師	原田治展	一畝田徹
廣川政和	堀内有子	堀内秀雄	間島博徳	宮坂慎司
村井良樹	安田陽子	山崎茂樹	吉岡徹	

(順不同・敬称略・計51名)



制作デモンストレーション



ギャラリートークの様子

矢山直子さんを偲んで

日本彫刻会理事長 山田朝彦

一昨年(2021年)12月8日、長く本会の事務をご担当いただいた矢山直子さんが逝去されました。享年85歳、いまだに「山田先生、お元気ですか。」と大きな声で電話がかかってきそうな気がしてなりません。

恐らく40歳以上の本会会員の多くが矢山さんにお会い

したことがあり、多かれ少なかれ面倒を見ていただいたはず。私もまた、初出品の頃から矢山さんにお世話になって参りました。日彫会といえば矢山さん、というくらい長い間、本会のために尽くしていただきました。

名物事務職員であった矢山さんは、小柄な身体で縦横無尽に飛び回って本会の事務運営に尽くされました。理事、役員の先生方にも臆することなく応対する、ともすれば厳しい物言いをするような人でしたが、若い作家にも「〇〇先生」と敬称で呼び、どの世代の作家にも等しく接するような真つ直ぐな人でした。

私も本会の会務に長く携わってきたので矢山さんとの思い出は様々あります。特に思い出されるのは2000年に発刊した『日本彫刻会史・50年のあゆみ』の編集時のことです。今でこそ、本会に関する様々な記録がデジタル化されており、瞬時に過去のことも分かるようになっていますが、その当時は、矢山さんの人間コンピュータが本当に頼りになり、あの資料はどこそこにある、その時はこうだった、と教えていただき様々に助けられました。その後、世の中のIT化が進み、本会も例外ではなく、矢山さんは1年かけて後任の若い方に本会業務を引き継ぎし、勇退されました。

矢山さんの一貫した姿勢は、彫刻を愛し、本会を大切に思ってくださいましたことだと思います。油絵を嗜まれていることもあったでしょうが、彫刻家に囲まれた日々を愛しておられたのだと思います。そしてそこには若い作家を守り育てていこうとする深い気持ちがあったのではないのでしょうか。どれほど多くの本会会員が矢山さんに励まされたことでしょう。そのことに今一度思いをいたし、矢山直子さんを皆さんとともに偲ぶことができたらと願っています。

すべての人に触れるアートを はじめてのクラウドファンディング

令和4年度、日彫会では初の試みとなるクラウドファンディング「触れるアートで未来をひらく！視覚に障がいのある子どもたちの作品を美術館へ」に挑戦しました。第52回日本彫刻会展覧会に展示された視覚特別支援学校小学部の子どもの作品は、取組の一環となるものです。

本企画に際しては、本会の会員が実際に視覚特別支援学校に出向いて授業を行い、共に作品をつくりあげていく形となりました。作品は会場に並べられると共に、より多くの方々にご覧いただくべく、U・20出品作品同様、日彫展図録にも特別頁を設けて掲載いたしました。

会場には人体や動物をモチーフとした7点のテラコッタ作品が並びました。



視覚特別支援学校の授業では、視覚に障がいのある子どもたちも空間を意識しながら形をつくりあげていけるように、教材の工夫に力を注ぎました。特に、テラコッタ制作に焼成可能な心棒を用いることで、立体造形に苦手意識を持つ子どもでも触覚的に空間構成がイメージでき、動きのある伸び伸びとした形態

の作品が多く生まれました。筆者も子どもたちの制作に携わり、子どもたちが粘土の感触を感じながら、自由に作品づくりを楽しむ様子を目にするのができました。完成した作品はまさに触れたくなるような魅力を放っており、大きく空間を使った作品やエネルギーに満ちた作品は感動を与えてくれるものとなりました。

「触れるアート・プロジェクト」は本会のものだけでなく終わらせるのではなく、国内外に向けて発信することが重要であると考えます。本会は触れる鑑賞教室を通じて、視覚に障がいのある人への彫刻鑑賞の充実化を図ってきました。そして、今回の取組は、クラウドファンディングの目的の一つである「障がいの有無を超えて作品づくりの喜びに触れる機会を増やすこと」に繋がる成果となったように思います。今後、触れる鑑賞教室に加え、障がいのある子どもたちに向けたワークショップや展示の機会を増やすことにも力を入れ、彫刻芸術の触覚的な魅力を発信できればと考えています。

(町野紗恭会員)

クラウドファンディング達成！
たくさんのご支援、ありがとうございました。

触れるアートで未来をひらく！
視覚に障害のある子どもたちの作品を美術館へ

2023年 第52回日彫展では、触れる鑑賞教室に加えて、盲学校・視覚特別支援学校の子どもの作品を展示します。このプロジェクト実現のために実施したクラウドファンディングでは、**46名**の方々に、総額で **660,500円** ものご支援をいただきました。皆様からの温かいご支援に、心より厚く御礼申し上げます。

2024年、次回の展覧会でも、より多くの触れる彫刻作品が集まり、充実した「触れるアートの場」がにつくれるよう尽力してまいります。引き続き温かいご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

公益社団法人 日本彫刻会

<https://camp-fire.jp/projects/view/623972>

CAMPFIRE 日本彫刻会

クラウドファンディングの詳細は左記QRコードからご覧ください！

訃報

左記の方が長逝されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

正会員 菊川 晋久 先生 令和4年8月

正会員 横山 豊介 先生 令和5年7月

編集後記

◆新鋭選抜展を担当させていただきました。カラーでの掲載となり、より一層先生方の活気に満ちた姿が伝えられ嬉しく思います。(カトウ)

◆皆様の活動の様子を、幅広くご紹介させて頂きたく参加させて頂きました。原稿に関する問い合わせに快く応じて下さった方々に、深く感謝申し上げます。(コウノ)

◆バスケットボールワールドカップ2023でパリ五輪の出場権を勝ち取った日本代表に元気を頂きました。自分も熱い思いを大事にしようと思いました。(タカノ)

◆以前から新鋭選抜展の出品作品をカラーで紹介したいと思っていました。No.82号は、カラーとモノクロを併用するという試みで作成しました。(テラヤマ)

◆新型コロナウイルス感染症が5類へと位置付けが変わり、本会もほぼ通常の運営となりましたことが、今回の会報から読み取っていただけることと思います。「便りがながいのは良い便り」という訳にはいかないのが会報です、ので、良いことも悲しいことも掲載しておりますが、次号は明るいニュース多めで誌面を飾りたいものです。

出版・広報委員 (五十音順)

加藤真浩 (カトウ マサヒロ)

高野浩子 (コウノ ヒロコ)

高野眞吾 (タカノ シンゴ)

(主任) 寺山三佳 (テラヤマ ミカ)

中原篤徳 (ナカハラ アツノリ)

日彫会報 No.82

令和5年9月30日発行